

北区きらりと光るものづくり顕彰



きらめきの技人部門

表谷 清 (丸清洋傘加工所)

所在地 北区豊島 2-6-3

電話 03-3919-1822

ホームページ <http://maruseikasa.com/>

受賞の概要

表谷清さんは、1949年に日本橋馬喰町の洋傘問屋に勤めて以来、傘づくりを続けています。洋傘問屋に勤めていたときに、表谷さんが造った傘を人気女優が大変気に入ってくれて購入してくれたことが、若い頃の自慢の一つでした。

表谷さんは、1960年に独立し、北区豊島の「いなり通り商店街」で「洋傘と履物の丸清」を開業しました。独立後は、問屋から傘の加工を請負う他、販売も始め、大きな工場の購買部などにも傘を卸すようになりました。

最近では1本1本手作業で作るオーダーメイド傘の人气が高くなり、製作と販売に力を入れています。表谷さんは、顧客の注文に応じて、通常の傘生地のほか、和服地や浴衣地、手拭いなどからも傘に仕立てています。また、四角い傘や変型傘などユニークで遊び心のある傘も造ることなどから、表谷さんの傘のファンも増えています。

洋傘の骨は6~12本と色々で、素材もアルミやステンレス、グラスファイバー、カーボン、天然木など様々です。骨の長さも50cm、60cm、65cmなどがあります。表谷さんは、骨が開く角度と長さ、素材、本数をみて、開いたときに程良いしなり具合になる長さに、傘の生地を裁断するのが傘づくりの要になると言います。表谷さんの培ってきた技術は、デザイン日傘の工房を宮む娘さんに受け継がれています。



作業風景



生地



北区きらりと光るものづくり顕彰



きらめきの技人部門

関 誠 (有限会社 大東ステンレス研磨工業)

所在地 北区豊島 6-4-1

電話 090-8856-3359

ホームページ http://www.monozukuri.city.kita.tokyo.jp/company/detail_16012.html

受賞の概要

関誠さんは、1954年から金属の研磨に携わっています。厨房器具に使われるステンレス板や真鍮製の時計ケースの研磨に始まり、タンクローリーのタンクなど大物の研磨に携わるようになりました。

関さんは、1962年に北区豊島で大東ステンレス研磨工業を創業しました。独立してからは、化粧品メーカー、食品メーカー、薬品メーカーなどの工場のストレージタンク（貯蔵タンク）や貯湯槽といった大型構造物の研磨を広く手掛けてきました。また、曲面が多く複雑な形状をした各種のモニュメントの研磨も得意で、数多く手掛けています。

関さんが手掛ける研磨には、バイブレーション磨きや面磨きといった表面を装飾するための研磨と機能面を重視した研磨があります。これは、金属表面や溶接面のピンホール（小さな穴）を無くし、タンクの防爆性を高めたり、食品材料や薬品材料がピンホールに残り、腐食するを防いだりする目的があります。関さんは、ステンレスの他にも表面粗さの異なる多種の金属材料を研磨します。複雑な形状や曲面の研磨とともに、材料の性質を見極めてピンホールを潰していくのが研磨技能の優劣を決める要だと関さんは言います。関さんの技は、若手社員に受け継がれ、業界にも広く伝えられています。



作業風景



磨かれたオブジェ



北区きらりと光るものづくり顕彰



きらめきの技人部門 **若手枠**

木島慎哉 (オーダーR)

所在地 北区堀船 3-32-3

電話 03-6240-8176

ホームページ <http://homepage2.nifty.com/kijim-earl/>

受賞の概要

木島慎哉さんは大学卒業後、インポートブランドの靴販売からキャリアをスタート。店長経験・シューフィッターの資格を経て自分の手で靴を作りたい気持ちを買き、都立城東職業能力開発センター台東分校製くつ科で靴つくりを学び、婦人靴メーカーでの企画職ののち、2003年にオーダーRを開業しました。

初めは、'Shinya KIJIMA' の名で革靴・革小物を製作し、インターネット上で販売していました。木島さんの評判は次第に広まり、現在は、デパートや有名専門店などからの注文も受けています。オーダーRでは、靴ばかりでなく注文に応じて財布、バック、衣類、ギターストラップなど様々なものをつくっています。ユニセックスを意識した曲線を大事にした基調のデザインが好評で、製作が注文に追い付かず、2～3年待ちの注文もあるといひます。

デザイナーと同時に造り手としても、己を高めていきたいという木島さんは、使いやすさ、長く使えることを意識して、ステッチワークと革漉き等、徹底的にこだわりを持って技能を磨いています。使いこんだ革の風合いを出すために、洗い加工を施したりと工夫を凝らしています。

木島さんは、物作りを後世に遺し復権させたいという思いから、工房で革小物・靴教室を開いています。これまでに約200人を教え、中には自営で身を立て革製品を生業とする生徒もいます。そして、木島さんは桑沢デザイン研究所や都立城東職業訓練センターの人気講師。人と人の繋がりを大事にこれからも様々な事に挑戦していきたい。そう力強く語っています。



R17 Wライダーズジャケット
(素材: レインディア (トナカイ) ¥194,400)



R246 R×SPINGLE MOVE スニーカー
(素材: アッパー/馬革 ゴムソール) ¥23,760

北区きらりと光るものづくり顕彰



きらめきの技人部門 若手枠

田中麻子(東和製本株式会社)

所在地 北区赤羽北 2-2-12

電話 03-3905-0281

受賞の概要

ものを造る仕事に就きたいと考えていた田中麻子さんは、仕事内容に「手仕事」とある東和製本の求人を見つけ、東和製本に就職しました。同社では、創業者で現会長の片腕であったベテランの石川昭一さんのもとで、貴重本や古書の解体・修復を習得しました。

田中さんが扱う古書は、著作権の切れた50年以上経ったものが多く、出版社や図書館に蔵書されていたものの、紙の酸化等、傷みの激しいものです。かつての名著や資料的価値が高い著作を出版社が復刻する際、本文をスキャンし版を起こすために、復刻本の製本に併せて原本の解体と再生を東和製本に注文します。

古書を傷めないで解体する「壊し本」には熟練が欠かせませんが、再生する「直し」にも工夫が必要です。上製本は一台(16頁分)を糸でかがってあります。しかし、原本の紙を再度糸でかかると、傷みを烈しくし、再生はしても耐久性は乏しくなります。そこで、会長と石川さんは、糸でかからない方法を考案しました。それは、本の背に溝を付け、そこに糸を埋めて固める方法で、古書を傷めず製本の強度も高めます。田中さんは、この方法を受け継ぎ、腕を磨いています。

田中さんは、古書の解体・修復の仕事は楽しくて、長く続けていきたいと言います。



古書の壊し作業



古書解体修復に使う道具類

